

# 「民族共生の象徴となる空間」基本構想のポイント

## 基本構想の位置付け

- 象徴空間における整備、取組等の基本的方向性を示すもの。
- 今後、更なる具体的検討の進展等に応じて、随時改定。

## 象徴空間の意義・位置等

- **アイヌ文化復興等に関するナショナルセンター**として、
  - ① アイヌの歴史、文化等に関する国民各層の幅広い理解の促進の拠点
  - ② 将来へ向けてアイヌ文化の継承、新たなアイヌ文化の創造・発展に繋げるための拠点となるよう、**北海道白老町、特に同町ポロト湖畔**を中心とする地域に整備。
- アイヌ語による愛称につき、今後公募を含め検討。



白老町位置図

## 象徴空間の機能

- **アイヌの歴史・文化を学び伝えるナショナルセンター**として、アイヌの文化を多角的に伝承・共有できるよう、博物館、伝統的家屋群、工房などの施設を備え、異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなるような空間を形成。
- 子供から大人まで、アイヌの世界観・自然観等を学ぶことができるよう工夫。
  - ① **展示・調査研究機能**
    - アイヌの歴史・文化等を総合的・一体的に紹介するとともに、実践的な調査研究を実施し、各地の博物館等のネットワーク拠点として機能。
  - ② **文化伝承・人材育成機能**
    - 自然空間等を活用して、アイヌの人々が様々なアイヌ文化を実践・伝承できるようにするとともに、次世代の文化伝承者を育成。
  - ③ **体験交流機能**
    - 古式舞踊、伝統工芸をはじめとするアイヌ文化の多様な要素を一般の人々が学び体験し、「顔の見える」交流を経験できるようにすることで国民理解を促進。
  - ④ **情報発信機能**
    - アイヌ文化に関する国内外の情報発信の拠点として、各地のアイヌ文化振興に関する取組等を発信。
  - ⑤ **公園機能**
    - 豊かな自然を活用した憩いの場の提供等の公園的な土地利用により、多様な利用者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成。
  - ⑥ **精神文化尊重機能**
    - 伝統的儀式・儀式等を通じたアイヌの精神文化の理解・尊重を促進するとともに、アイヌの人骨に係る尊厳ある慰霊に配慮。
- 現在、白老地域で実施されているイオル再生事業は、象徴空間の取組として継承・再編。



ポロト湖と伝統的家屋(チセ)

## 象徴空間の範囲

- ①ポロト湖畔を中心とする「**中核区域**」、②周辺の「**関連区域**」で構成。
- **中核区域**: 博物館等を核として、公園的土地利用がなされるべき**一体の区域**。
  - ➔ ポロト湖畔全域とともに、隣接するポロト自然休養林(国有林)の一部を活用して様々な取組を展開。
- **関連区域**: 中核区域の周辺にあって、**豊かな自然に極力人為を加えずに、文化伝承活動、体験交流活動等の取組を実施する区域**。
  - ➔ 現在の白老地域イオル再生事業の実施箇所を中心とする。



ポロト湖畔周辺図

## ポロト湖畔の土地利用計画(ゾーニング)

- ①中央広場ゾーン、②博物館ゾーン及び③体験・交流ゾーンの3つのゾーンを設定。
  - ① **中央広場ゾーン**
    - 象徴空間来訪者の玄関口として、ポロト湖等の豊かな自然を体感してもらうとともに、歓迎する場。
  - ② **博物館ゾーン**
    - 博物館を中心として、アイヌの歴史、文化等を総合的・一体的に展示するとともに、実践的な調査研究、伝承者等の人材育成を併せて実施。
  - ③ **体験・交流ゾーン**
    - 伝統的なコタンの姿を再現し、アイヌ文化の伝承活動や体験学習等の活動、国内外の文化との交流の場として活用。



ポロト湖畔のゾーニング(イメージ)

## 今後の取組・検討課題等

- **博物館に係る「基本構想」**について、**平成25年夏を目途**に一定の結論。
- **文化伝承・人材育成、体験交流活動等の具体的な取組内容**について、有識者や若手を含むアイヌ等の声を聴きつつ、**平成25年夏を目途**に一定の結論。
- **整備・管理運営手法の在り方等**について、**平成25年度中を目途**に一定の結論。
- (財)アイヌ民族博物館の人材・知見を象徴空間の管理運営に最大限活用。
- 国と関係自治体(北海道、白老町)等の連携・協力を一層強化。
- **アイヌ人骨**の返還や集約に向けた進め方等について検討促進。 等